

## 癒しのトイレ研究会 研究誌14号によせて

# 患者さんに本当に必要なものとは何か



癒しのトイレ研究会 会長  
**高柳 和江** (たかやなぎ かずえ)  
放送大学 客員教授  
特定医療法人社団清和会  
一般社団法人癒しの環境研究会 理事長  
笑医塾 塾長

96歳のママさん。30年来の痔があります。ご家族も、医師も、ご本人も、長年の痔だし、年齢が年齢だから手術の適応ではないとしていました。ママさんは、常に下剤と洗腸をせがみ、水をあびるほど飲んで、水中毒になってしまうからと制限されるくらいでした。夜中にトイレに行こうとしてベッドを出ます。でも体が動かないから頭から転び、頭から足まで全身、青あざだらけになりました。それでも、翌日も転びます。彼女には、何が必要なのでしょうか。転倒予防の靴下か、ベッドの周りを明るくするか、拘束か、精神安定剤か。

実は子どもの拳ほどもある大きな痔が、肛門を塞いでいました。こうした異物があると、いつでもトイレに行きたくて、じっとしてられません。でも、96歳の認知症がかかった人では訴えもできません。いつも機嫌が悪くなる。便を出すことが全生活の中心になる。痔は彼女にとっては便であり、異物だったのです。いつもトイレのことばかり考えていると、ベッドから近いところ、場所が見つけやすいところにトイレがほしい。そして、転ぶ前に、便座に座りたいと思うものです。

手術をしようとご家族を説得し、医師を説得しました。そして、手術で痔が治ったママさんは、落ち着いた素敵な笑顔になりました。人生が変わったのです。下剤も、洗腸も、大量の水も、もういりません。

トイレは、どうして必要なのか？ 病気の元を断つことも、病気を持ちつつ使うトイレも、患者さんの視点で考えたいものです。だから、トイレの臭いについても考えたい。今回の研究誌では、臭いのことや、より患者さんの病状を考えたトイレなどを特集しています。皆様のお役に立てたらうれしく思います。

## 癒しのトイレ研究会とは



より良い病院・福祉施設のトイレ環境づくりを目指して、トイレ関連企業が結束して2000年に発足しました。発足以来、調査・研究を重ねて毎年研究誌を発行し、学会発表や各種セミナーなどを継続してきています。

## 癒しのトイレ研究会のホームページ

<http://hospitality-toilet.jp>

病院・福祉施設のトイレづくりに役立つ、さまざまな情報を掲載しています。

- 病院トイレの豊富な現場実例
- 病院トイレづくりのポイント
- 清掃やメンテナンスの方法



## 癒しのトイレ研究会の研究誌

癒しのトイレ研究会は発足以来、病院と福祉のトイレづくりの調査・研究の成果をまとめた研究誌を、毎年発行しています。ホームページから閲覧・ダウンロード、さらにお取り寄せいただけます(無料)。

